

財団法人 中山科学振興財団  
**平成22年度事業報告書**

(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

平成22年度は、事業計画に従い以下の会議を開催し、次の通りの事業を行った。

I. 会議

1. 理事会

- ①第60回理事会(平成22年 6月10日 午後6:30～9:05)  
平成21年度事業報告、同収支決算の承認
- ②第61回理事会(平成22年 8月19日 午後6:30～9:25)  
平成22年度中山賞大賞・同奨励賞、研究助成対象者及び国際交流助成対象者の決定
- ③第62回理事会(平成23年 2月 7日 午後6:30～8:30)  
平成23年度事業計画、同収支予算の決定  
評議員の改選  
選考委員(専門)の選出  
新公益法人移行プロジェクトチーム新メンバーの件  
顧問の選任

2. 評議員会

- ①第38回評議員会(平成22年 6月10日 午後6:30～9:05)  
平成21年度事業報告、同収支決算の承認
- ②第39回評議員会(平成23年 2月 7日 午後6:30～8:30)  
平成23年度事業計画、同収支予算の承認

3. 選考委員会

- ①平成22年度選考委員会(平成22年 7月 30日 午後0:00～3:00)  
中山賞大賞受賞候補者の選考  
中山賞奨励賞受賞候補者の選考  
研究助成対象候補者の選考  
国際交流助成対象候補者の選考

4. テーマ検討会議

- ①平成22年度テーマ検討会議(平成22年12月 6日 午後6:30～8:10)  
平成23年度褒賞・助成のテーマについて検討 《在京の学術担当理事および選考委員(常任)》

5. 新公益法人移行に関するワーキング・グループ会議

- ①第4回ワーキング・グループ会議(平成23年 2月 24日 午後6:00～9:00)  
具体的な申請に向けての確認 《ワーキング・グループ担当理事、監事、事務局他》

## II. 事業

1. 「森林の人間科学」をテーマとする以下各氏の研究に対し褒賞・助成を行った。  
(所属・肩書は授賞・助成当時／敬称略)

### 中山賞大賞：1名 300万円

安田 喜憲(やすだ・よしのり)／大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 教授(前 副所長)

森林の人間諸科学を統合する「文明の環境史観」

### 中山賞奨励賞：該当者なし

### 研究助成：4名 各100万円

池上 高志(いけがみ・たかし)／東京大学大学院 情報学環／情報学府 教授

「森林のサウンドスケープを再構成し理解する人工生命システムを用いた研究」

稲城 玲子(いなぎ・れいこ)／東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科 特任研究員

「天然植物由来揮発性物質の虚血性細胞障害に対する薬効評価」

加藤 智啓(かとう・ともひろ)／聖マリアンナ医科大学 教授

「プロテオミクスによるヒノキチオールへの細胞に対する影響の網羅的解析」

上岡 洋晴(かみおか・ひろはる)／東京農業大学 地域環境科学部教養分野 准教授

「森林療法におけるランダム化比較試験のシステムティック・レビュー：エビデンスとフィージビリティからのアプローチ」

### 国際交流助成(海外渡航)：4名 各35万円 \*別途1名本人都合により辞退 五十音順

柿沼 敏行(かきぬま・としゆき)／千葉大学医学部附属病院 産婦人科 医員

「子宮内膜症におけるエストロゲン発現調節機構の解明とその分子標的治療の開発」

渡航先：アメリカ・シカゴ, Northwestern University Feinberg School of Medicine

菊田 一貴(きくた・かずたか)／国立がん研究センター中央病院 レジデント

「ヨーロッパ(フランス)における整形外科骨軟部悪性腫瘍に関する臨床および研究の実態調査研究と骨軟部腫瘍バイオマーカー開発のためのプロテオミクス解析の啓蒙活動」

渡航先：フランス・パリ, Cochin-St. Vincent de Paul Hospital

小林 洋平(こばやし・ようへい)／独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター 研究員

「単一細胞レベルでの分子ネットワーク解析による臨界期制御機構の解明」

渡航先：アメリカ・ボストン, Harvard Medical School(Children's Hospital Boston)

瀬原 吉英(せはら・よしひで)／医療法人社団思誠会 渡辺病院(岡山県) 医員

「虚血脳における REST の遺伝子発現活性化プログラムについて」

渡航先：アメリカ・ニューヨーク, Albert Einstein College of Medicine

### \*本人都合により辞退

金澤 英明(かなざわ・ひであき)／慶應義塾大学医学部 助教授

「虚血性心筋症に対する心筋幹細胞を用いた新しい心筋再生療法の確立」

**国際交流助成(海外研究者受け入れ):1名 35万円**

**\* 招聘研究者の都合により辞退**

**【受け入れ研究者】**

岡 瑞起 (おか・みずき) / 東京大学・知の構造化センター 特任研究員

**【招聘研究者】**

Albert-Laszlo Barabasi (アルバート=ラズロ・バラバシ) / ノースイスタン大学 Distinguished Professor and Director  
「動く地図」による物理空間における潜在的アフォーダンスの検知と生成に関する研究

2. 中山賞・研究助成等贈呈式

平成22年 9月23日に、平成22年度褒賞受賞者・研究助成対象者及び理事、選考委員で贈呈式および食事会を開催した。

3. 出版事業

第18回の褒賞・研究助成・国際交流助成の成果を発表すべく、「活動報告書2009」を作成した。該当の研究者、当財団理事・評議員・選考委員、過去の大賞・奨励賞受賞者・研究助成者に送付。また、例年通り、全国の大学・研究所・病院の図書室に合計約370部を謹呈。

III. その他

文科省監査改善報告の件

改善途中事項は以下の通り（改善終了まで事業報告に記載するよう指示のあったもの）

問題点： 非常勤理事について、自動車賃の支給額が高額であり、実質弁償程度となっていない。また、選考委員に謝金が支給されているが、算定根拠となる規則がない。

回答： 理事長、副理事長、常務理事で検討し、新公益法人移行に向けての議案とすることとした。

問題点： 非常勤監事について、自動車賃の支給額が高額であり、実質弁償程度となっていない。

回答： 理事長、副理事長、常務理事で検討し、新公益法人移行に向けての議案とすることとした。

問題点： 評議員会の書面表決表について、日付のないものがある。

回答： 改善完了。

問題点： 事務処理関係規則及び職員関係規則が整備されていない。（前回指摘事項）

回答： 新公益法人移行に向けて整備する。

問題点： 公印管理に関する規則等が整備されていない。

回答： 新公益法人移行に向けて整備する。なお、公印使用簿は整備済みで、全ての使用に際して記入・署名を行っている。

問題点： 平成21年度決算の内部留保水準が147.5%である。（前回指摘事項）

回答： 内部留保額の縮減は検討してみるものの、当財団の内部留保率は毎年そのまま高水準を維持出来ている訳ではなく、昨今の利息収入の減少から、年々内部留保率は下がってきている。平成22年度決算では72%に減少しており(平成21年度147.5%)、平成23年度決算時には更に減少するものと思われる。このままの利率が続けば、間もなく内部留保そのものが見込めなくなる状況で、現時点で事業の拡大(助成額の増額等)は行えない。

以上